

令和4年度 水沢高校 第2回学校運営協議会 議事録

1 日時 令和4年10月12日(水) 14:30～15:30(実～15:45)

2 会場 水沢高校 会議室

3 出席者(12名)※欠席者2名

菊池祐委員、鈴木美喜子委員、菊地榮壽委員、朽木静委員、東隆司委員、五十嵐智行委員、佐々木敏紀委員、校長・菅野誠二、副校長・田鎖伸也、事務長・富手明美、教務主任・松澤祐一、進路指導主事・目黒賢哉

4 資料

(1) 令和4年度岩手県立水沢高等学校第2回学校運営協議会次第 ※裏面委員名簿付

(2) 水沢高校PTA会報「飛龍」(7月25日発行)

(3) 東北大学大学院／東京学芸大学大学院 堀田 龍也先生 講演概要(校長から当日配付)

5 次第

(1) 開会 (2) 校長挨拶 (3) 協議 (4) その他 (5) 閉会

6 議事録

(2) 校長挨拶

[校長]

本日はお忙しいところ、第2回学校運営協議会に御参加いただきありがとうございます。今年度も半分が過ぎ、校内においても各分掌で中間反省を行ったタイミングでございまして、その内容を委員の皆様にも共有していただき、提言や要望等いただきたいと思います。今年度は水高においてもコロナ感染状況が酷く、学校でできる感染対策はすべてやりましようと言って取り組んできましたが、常に陽性者が出ている状況が現在まで続いています。6月の下旬、今年度唯一感染が途絶えた時期に、運動会、クラスマッチを実施できたのはとても喜ばしいことでした。3年生にとっては初めての運動会でしたが、水高の伝統を引き継いだ素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。8月下旬の文化祭では、3年生の保護者のみ来校可として実施し、生徒達にも充実した時間となったようです。閉会式でも皆良い表情を見せていて、学校行事を普通に実施することの素晴らしさをあらためて感じましたが、その後残念ながらクラスターの発生となりました。12月は2年生の修学旅行を控えています。保護者説明会を開き、感染対策を説明しましたが、コロナ用の保険に加入することで4泊から3泊と短縮したかたちでの実施となります。最大限の対策を取りながら、無事に旅行を終えてほしいと願っております。私^{わたし}的には3年間続くコロナ禍と、そしてロシアのウクライナ侵攻で世界は完全に過去のものとは違ってしまったと認識しています。学校の役割として、答えのない時代に正しく物事を見つめ、考え、実行できる人を育てていかなければならないと思います。先月の職員会議で先生方に配付した堀田^{ほりた}龍也^{たつや}先

生の講演の骨子がありますが、目を通していただければ、と思います。これから若者に必要となるのは、その骨子の中にある6の項目である当事者意識だと思います。普通科と理数科で探究の時間に取り組んでいる内容に違いはありますが、どちらも生徒の主体性を育み、当事者意識をも持てるような内容になるよう取り組んでいます。今日は欠席しておりますが、奥州市役所の大越様にもお手伝いいただいておりますが、充実した探究の時間を水高の魅力の一つにしたいと考えています。社会がどんどん変わってきますが、生徒にはそうした中でも生きる力をしっかり持った人に成長してほしいと思っています。本日は忌憚のない御意見をよろしくお願いいたします。

最後ですが、校舎正面の時計台が今外されていますけれども、昨年壊れたものです。同窓会で予算措置を取ってくれまして、同じサイズのもの、タイプのものを取り付けますが、第2号ということを経験の方にもわかっていただきたいと思います。色を若干変えて濃いエンジ色の時計を設置する予定になっております。

(3) 協議

資料説明（令和4年度中間反省会議資料）

[総務課 主任代理・副校長]

中間反省会議資料の1ページ、総務課のところでございます。主なところを申し上げます。学年PTAにつきまして、昨年度は書面決裁等もあったのですが、今年度は少しずつコロナが快復してまいりまして何とか対面で実施できる方向にきております。また、6月のクラスマッチ・運動会の際にはPTAからの差し入れということで生徒達も我々職員も大変嬉しくいただきました。PTA会報については2号分発行するという事です。

[教務課 教務主任・松澤祐一]

アンケートの、主体的に学んでいるか、という設問に対しては自己評価9割を超える生徒が自ら主体的に取り組んでいると答えていて、昨日の成績会議では、対話的な部分、協働的な学びのところについては生徒の自己評価どおり概ね達成されている反面、資質的な能力を磨こうというところに主体性がまだ欠けているのではないかが話され、生徒の資質向上を図っていくことが共有されました。まず、我々教員が互いに授業の精度を高める、さらにICTの活用と有効性を高めるということで、来週10月24日から「学校へ行こう週間」もありますので、そういう機会等を使いながら互見授業をしていくことを確認しております。

[副校長]

補足いたします。今年度から本校は通年で45分×7コマ授業、3年生はそのあとに課外授業は45分でございますし、ただいま教務主任からもございましたように、ICT活用につきましては、授業でスマホを活用した学習とかスクリーンに投影しての教材の共有であるとか、進めているところでございます。

[生徒指導課 主任代理・副校長]

次に生徒指導課についてです。先程総務課のところでもお話し申し上げましたが、生徒会の行事も少しずつ

対面で行われるようになってまいりましたが、やはりコロナ予防という観点から一部はオンライン、リモートで各教室視聴という行事もございました。ただし、本校生は自分たちで工夫して楽しめる生徒達ですので、運動会・クラスマッチでは屋内外競技においてきちんとマスクをするなどして、盛り上がるところは盛り上がっております。

また、前期総括の中断あたりにございます新応援団に関しましては、新制服になりましたのでどういったでたちになるかは現在検討中ですが、メンバーは全 11 名です。1 年生が 3 名、2 年生は 8 名、2 年生は男女 4 名ずつの構成です。従来の指導方法とはまた違って、できるだけ丁寧に牽引し、活性化させようとリーダーが頑張っております。

[進路指導課 進路指導主事・目黒賢哉]

コロナの影響があつての 3 年目となります。オープンキャンパス等が今年度対面で開かれる学校がやっと出てきたのですが、とは言え感染の恐れがあるとうことで参加を躊躇う生徒がいたりして情報収集がやや滞り気味で進路に関して考える機会が若干少なめでありました。また、受験に関してはだいたいこの 2 年間でコロナに関連して推薦の面接等がオンラインで行われる体制は整ったようです。昨年度までは 50 分授業であったため 3 年生の放課後課外は 16:30～17:30 で行われていたのですが、今年度 45 分×7 校時ということになりました、(3 年生の放課後課外は) 16:00～16:45 になり、8 校時的な扱いで課外授業を入れるかたちになりました。生徒達には自分が必要な勉強を自学できるように時間を返すという方向性で進めております。また、1、2 年生につきましては平常課外を行っておりません。また、夏休み、冬休み等長期休業中の課外につきましては 1、2 年生については実施しないかたちになりました。一番大きな理由は、エアコンが整備され 7 月下旬の暑い時期に普通に授業が実施できますので、例えば昨年度までは 1、2 年生は英数国を中心に課外を行っていたのですが、すけれども、他の教科、特に理科、社会等授業時間数が少ないので、課外ではなく授業というかたちで実施しております。こちらも概ね好評でございます。休みは休みという切り替えができますので、このようなかたちで進んでいく予定でございます。冬休みも 1、2 年生の課外は実施しないため授業日は昨年度よりも若干多くなります。春休みについても同様でございます。何れにしてもエアコンの導入により生徒達もかなり快適に学習できる環境が整えられ有難いですのでそれを生かしていきたいと思います。3 年生については例年どおりの課外にしておりますけれども日曜日は休みにしておりますし、学習のリズムをある程度安定させるように進めております。これからの大学受験等につきましては、ほとんどの生徒が進学を希望しているのですが、就職を希望している生徒も若干、公務員志望も若干名、民間をどうしようかと考えている生徒もあり、合わせて 10 名以下ではございますが、それぞれに向けて準備しております。公務員志望者も 1 次試験は通りましたので次の 2 次に向けての準備となります。大半の生徒が希望している進学ですけれども、センター試験から共通テストに変わった 2020 年から、以前“推薦”や“AO”と呼んでいた入試の定員が非常に増えております。後期日程の入試を実施せずに、その分の定員を推薦等に振り分けるところも多く、推薦等への動きが随分大きくなって

きました。本校も例年今の時期ですと大体 80 名ほど国公立大学に推薦で出願する予定でおります。私大等含めますとほぼ学年の半分くらいが何らかのかたちでそれにかかっているというのが以前とは変わってきたところでございます。また、試験日がもう始まっているところもあるのですけれども、長期間にわたって生徒を指導していくかたちになっておりますので、成果を上げてほしいと思っております。今後につきましては、3 年生は共通テストに大体 9 割以上の生徒が出願しましたけれども、それに向けて準備をしていくこととなりますが、同時に冬の三者面談に向けて実際の出願校の検討ということに入ります。また、1 年生に関しましては文理選択があるのですが、新しい制度での受験ということになります。例えば、報道されているように「情報」が共通テストの科目に入ること、ということとかですね、いろいろ変わるところがありますので、この辺はまだ私どものほうでも様子がわからないところがありまして、常に情報を集めて学年 P T A 等で保護者の皆さんや生徒達に伝えていきたいと考えております。

[保健厚生課 主任代理・副校長]

続きまして 5 ページの保健厚生課について 3 点ほど説明いたします。1 点目は、コロナ対策についてですが、これは養護教諭が中心となり極力感染防止に努めております。2 点目はハイパー Q U についてですが、この調査は生徒の心の状態を知るためにひじょうに重要なものとして我々は考えており、1 学年においては教員研修会も実施して早目早目の対応に努めております。1、2 年生は 11 月にも実施いたします。最後 3 点目、ワックス清掃についてはかねてから実施したいと考えておりましたが、コロナのまん延、床のしつこい汚れ、予算やポリッシャーの確保等の課題がございまして現在滞っているところです。

[図書課 主任代理・副校長]

続きまして 6 ページの図書課についてですが、今年度アイディアを沢山出しておりまして、図書館だよりも現時点で第 7 号まで発行しております。コロナの合間をぬって、生徒にできるだけ様々なものを見せようということで「ポンペイ展を見に行こう」や、ここには書いていないものも含めて生徒の色々な活動を企画しております。本にできるだけ親しんでもらい、簡単に本に接することができるよう「ライブラリーストリート」を設け、通りかかったときにそこで今話題の本を手にとって見られるよう、そしてまた学習環境の整備としてそこには各階のそこに机や椅子、スタンドも準備しておりますので、そこで座って見ることもできるよう、考案されたスペースです。生徒は結構立ち止まって、数人で読んでいる光景もございます。芸術鑑賞会は今年度ゴスペルを鑑賞いたします。

[情報広報課 主任代理・副校長]

次は 7 ページの情報広報課についてです。コロナになりまして、生徒や職員が学校に来られない状況が続きました。そこで大事になってきたのがネットワークや連絡手段でございました。県立学校に導入された Office365 の各機能 (Word、Excel、PowerPoint 等) の中でも特に Teams を活用するよう県からは推奨されております。Teams は生徒に対する連絡手段、授業手段として使います。保護者には「マチコミメール」というも

ので諸連絡を行っております。コロナは勿論、昨今起きております大型の台風や地震を含めた自然災害時に連絡できないと困るということでこういったものを取り入れております。このような際に連絡できないと困るので二重三重の連絡手段ということで取り入れております。

[理数科課 主任代理・副校長]

8ページの理数科課についてです。コロナ禍ではございますが、生徒たちにはできるだけ実際に経験させようということで、現2年生も、今の1年生でも理数科希望が増えているのはその成果の表れであると思います。京都や筑波等色々な所への研修や、大学から本校に先生をお招きしての実験も頻繁に行っております。希望制で実施しているのですが、結構沢山の生徒が集まります。これはホームページに掲載されている他、現在8号まで発行しております理数科通信でも取り上げ、生徒たちに配布しております。

[普通科探究課 主任代理・副校長]

最後になります9ページの普通科探究課ですが今年度新設した課でございます。御存知のとおり本校は奥州市と包括連携協定を結ばせていただいております。市の資源を大事にし、人材を確保し、人材を育てたいという観点から様々な協力をいただきながら生徒たちも生き生きと活動し始めたところでございます。こちらに載っている他にも現在進行している活動もあり、本校の魅力化発信にも使わせていただいております。

[各学年 主任代理・副校長]

10ページ以降の各学年については、お時間の関係上割愛させていただきますので事前にお目をお通しいただいたところから御質問等いただきたいと思います。

以上です。委員の皆様から忌憚のない御意見・御質問等頂戴いたしたいと思います。

(3)協議(質疑・提言・要望等)

[鈴木美喜子委員]

何点が質問させていただきます。最初に基本的なところなのですが、現在の生徒数を教えてください。

[副校長]

10月12日本日現在、1年生は男子が108名、女子が134名、合計242名、2年生は男子92名、女子143名、合計235名、3年生男子105名、女子109名、合計214名、どの学年も女子が多いのですが、男子の合計が305名、女子の合計が386名、全校生徒計691名、女子が全体として男子よりも81名多い状況です。

[鈴木美喜子委員]

次に教職員の皆様の頑張りには本当に感謝しているわけですが、県内における水沢高校の学力の低下は、他校との比較の問題なのか現実問題として下がっているものなのか、学力が最優先されるものではないですが、気になるところです。その辺の状況について教えていただきたいです。文武両道で頑張ってもらいたいです。

3点目ですが、奨学金についてです。世の中全体として、社会人になってからもその返済に苦しめられてい

るとお聞きします。学校側としてはどのようになされているのか。

[校長]

2点目に関してですが、40歳はじめ頃に一関一高に勤めていた時も水高は元気がないな、と思っておりまして。昔に比べるとやはりかなり進学実績は落としているというのが実情かと思います。特に、一関一高に附属中学校ができた時から小学校卒業生が一関に通うことに拍車をかけたとも思いますし、新幹線に乗って盛岡一高に通う生徒もいるようですね。交通の発展とともに人が流れているなあという実感はありますし、私は2年しかいないわけですがけれども、何とか進学実績を上げていきたいというのは大きな目標の一つと捉えております。今の1年生にも優秀な生徒達が入学してきているので期待したいと思っております。3点目の奨学金につきましては、色々なものがございまして、(本校は)同窓会でも奨学金を貸し出している珍しい学校なのですけれども、それでも貸付になることから給付型が増えてきていると思います。かなりの生徒が借りています。

[鈴木美喜子委員]

2点目の学力の低下の部分は、時代背景が凄く関係していると思いました。交通機関の発展によって逆に広範囲で動ける、学校も選べるというところも意外に大きな原因になっていると感じましたので、そういう意味では憂えることもないのかなと。やっぱり在校生の皆さんはベスト尽くして頑張っていると思いますし、指導される先生方も頑張っておられると思いますので、ぜひこれからも文武両方頑張っていただきたいと思います。

[菊池祐委員]

(学校の教育目標の目標指標で)満足度が80%とありましたけれども、この数値に関して比べるものがないのですが、今後一つの目安になるのだらうとは思いました。

教務課の1年生と2年生のアンケートへの答え方の傾向として、1年生から2年生になるところなのか、あるいは学年の色なのか、面白いと思って見ましたがけれども、成績会議のところで(推薦入学者の)動向追跡を取りやめたいという部分については、特にやめても手順的に問題がないからなののでしょうか。

[教務課 教務主任・松澤祐一]

学習指導への活用までには至らないことと、顕著に成績がどうということもないので、する必要もないだらうという意見が出たということです。

[菊池祐委員]

この春高校を卒業した大学1年生の意見を聞いてみました。今の高校生に足りないものは何なのか、泣く子や逃げる子を見てどんな授業や教育的経験が必要かと、バイトとかボランティアとか生徒会活動とか応援活動とか、議論とか過酷な活動体験とか、色々例を挙げたところ、返ってきた答えは、部活動とか応援歌演習というのは心を鍛えると思うから必要であると思う、もしもきつくて逃げたとしても経験にはなると思う、そういう機会を確保することが大事であると思う、という答えが返ってきたので、どうしても是か非かとなりやすい

のだけれども、そうではなくて、むしろ多様化していてそういった経験も機会を確保していくという考えも大事なのかな、と。

それから進路指導については、ガイダンスが子供へはなされているが、大学進学を経験していない親にとっては学費も含め、どのような準備をしたらよいかわからないと思う。

図書課については、「ポンペイ展を見に行こう」に27名も参加したということで凄いなと思いました。こういった書店や図書館の紹介についてもっともっと活発に継続されるといいのではないかなと思いました。

1学年の今後の対策で、上位者や医学部医学科に対する指導もするというのは、そういった要望が色々あったのだろーとは思いますが、素敵なことかなと思います。本当に全国的に医師不足になっているので、将来医師になるんだという夢をもった学生を生み出すことはとても素敵なことだな、と思って見ました。

[校長]

1ページの総務の一番上の「本校に入学して良かったと答える生徒・保護者の割合」は一応目標を80%にしておりますが、実際は90%近くの生徒がそういうふうに答えています。ここはあえてハードルを低く設定しております、あまり高く設定するものでもないであろうということで。

生徒課の色々な総括や対策等々は、教職員もそうですし、生徒もそうなのですが、色々な意見がありますので、話し合って落としどころを見つけていくしかない、という作業を丁寧に行いながら学校の進め方を考えていかなければならないなと感じています。本当に色々な意見があつて、教員もそうなので、生徒も勿論そうだと思いますので、応援歌練習のあり方も今の3年生は去年、自分達で話し合って方向性を決めていったようですけれどもね、いずれ、そういう色々な考え方があるのだということを逆に強みにして進めていきたいと思っております。

図書館のお話がありましたけれど、図書館だよりを頻繁に出しておりますのでその都度ホームページに上げていますので、担当者の文章も内容も素晴らしいのでぜひ御覧になっていただきたいと思います。

[進路指導主事 進路指導主事・目黒賢哉]

進路が多様化していて何を選ぼうかこの時期生徒が決めかねるというのはそのとおりであると思います。今までですと、オープンキャンパスに特に2年生のうちに参加するように結構強めに言っただけで、コロナ前ですとこちらの予想以上に行ったりしたのですけれど、コロナ禍になってからはなかなかそうならないということは確かにあります。今年は対面で実施するところもあったので、通常は3年生に行かせることはないのですが、見てみないとわからないということで機会があれば参加しているということです。どの方向に進むかの大きなきっかけは担任との面談になるかと思います。というのも、こちらでは概要的・学問的なことは紹介等はできるのですが、それが本当に当該生徒に向いてるのかどうかは、担任と生徒が面談してやり取りしていく中で決まってくるというのが例年のことでございます。特に、推薦や総合型の増えている状況では志望理由を固めるということがひじょうに重要になってきます。例年夏休みに志望理由について考えようというガイ

ダンスを行うのですが、やっぱりピンときませんね。担任と何故そうなのかというやりとりをかなり行わないと固まらない、進路希望調査を取りますと、一度ここに行きたいと言うと進路希望を（悪い意味で）変えようとしないうです。進路を決めたら（もう一切）無駄なことはしたくない、というのがあるのかどうかわかりませんけれど。色々な方向から情報提供して、その後で一番大きな担任との面談の中で詰めていくところです。それが時間のかかることでもあり大変なことでもあるわけです。大学受験に関する情報提供については、コロナ前にはPTA総会である程度全体的な紹介をして資料等を出していたのですが、（できない状況のため）学年PTAで提供している状況です。例えば6月の3学年PTAではお金がどのくらいかかるのか、どういう日程であるのか、そういうことについての資料を出して説明しておりますし、今後は、来週に1学年PTA、その後に2学年PTAがありますので、そういう学年PTAの機会に保護者の皆様には提供します。特に経費についてはこちらで作った資料もありますけれども業者さんが用意してくれているものもあるのでそちらを提供することで伝わるかと思っております。推薦・AOの割合が非常に増えてきておりますので、受験の仕方についての取組について指導することが必要であることはそのとおりでございます。先程、御指摘がございました小論文等については、学校としてしているのは基本的に小論文模試前後のところでの指導、2年生は1回、3年生は1回ということで、その前後で指導し、昨年度まではSSHの学校設定科目の中に、論文というのがございまして、1年生の国語の先生が教えているものでしたが、まだ他人事なんですよ。一気に伸びるのは3年生の今の時期、実際にどこを受けるか、取り組む態勢が整うと水高生は伸びます。ただ、それを待っているのでは厳しいので、ガイダンスとか小論文模試で準備だけはしておく、という体制で現在取り組んでおります。特に、推薦入試等で小論文が必要な生徒には9月頃から担当の先生1人あたり3人の生徒を割り当て個別の指導をしていただいております。もう少し早く準備しておけば、というのは確かにそのとおりではあるのですが、親御さんへの情報提供は確かに少ないとは思っております。今の1学年から受験の状況も変わりますので、1学年PTAで説明したいと思います。

[菊地榮壽委員]

事前に資料を配付していただいて、本当に日々水沢高校の先生方や生徒の皆さんは一生懸命されていると感じております。今までの委員の皆さんと重複するかもしれませんが、3ページで、文芸短詩部の俳句甲子園等全国大会での活躍、OBとしても感心しております。学力と考えたとき、多様性が問われています。中学校の教育においても、個別最適な学びや協働的な学び、個々の子供たちの特性をいかした学習指導、個別だけでなく協働的な学習、（中学校では）総合的な学習、ひとりも取りこぼさない教育が今進められています。個々を知りながら個々を育てながら集団も育てながら、本当に理想的な令和の日本型学校教育なんだなあと思っておりますが、その中で制服だったり応援歌練習のスタイルだったり、その多様性、色々な人達、色々な保護者、色々なOBの方々、折り合いをつける、大人の世界でも言いたいことだけ言うのではなく、互いに尊敬しながら折り合いをつけていくという部分も中学校の子供たちにも学ばせていきたいし、当然職場、先生方にも自分の指

導方針とか、それだけ押し付けていくのではなく、職場体質とか、尊敬しながら折り合いをつけていく、大人もそうですが、水高の生徒の皆さんにも大事にしていかなければいけないのかなと思っております。その中で先程以来出ている水高の魅力。やっぱり自分も水沢高校を卒業して良かったなと今でも思っている、ある意味ではプライドなのだと思います。水高の良さをどこから引き出していくか、本来であればこの協議会の中で、まあ熟議と言うそうではありますが、他の高等学校、進学校との差、強みって何であろうかというあたりを、皆さんで出し合って水沢高校の良さというものを再確認しながらやっていくということが必要なのかなというふうに思います。今年になって、いつでも（学校に）来てくださいと校長先生から前向きなお声掛けをいただいで本当に有難いのですが、3ページにあるのですが、応援リーダーはパワハラにならないよう工夫をこらして、とありますが、具体的にどんな感じなんだろうかな、今の応援練習って。当時は昼食も食べたか食べていないのかわからないうちに太鼓が鳴って、ビクビクしながら、声を出さないと3年生の方に引き出されて歌わされたりなどしたのですが、新制服導入に伴う服装基準というものはあるのでしょうか。あと、最後に4ページの前期総括の4番ですが、東大金曜講座というのは何でしょうか。教えていただきたいと思います。

[進路指導課 進路指導主事・目黒賢哉]

東大金曜講座というのは、東京大学の先生が金曜の夕方に高校生向けに配信しているオンラインで講座のことです。以前は学校でまとめて観るかたちのものだけだったのですが、コロナ以降、オンラインのズーム等で各自が観られるようになった教養講座でございます。結構専門的なことを、大学の先生と高校生たちが互いに意見交流できる場でもございます。東京大学と連絡を取りまして本校も配信しているものでございます。以前は学校でとりまとめていたのですが、学校行事等日程が合わないとか、時間も17:30から始まって大体19:00過ぎくらいまでかかるので、それぞれ個人で取り組むかたちに変えて生徒には紹介しています。生徒は自分の関心がある講座について聴いています。

[校長]

学校の魅力化というところですが、これは最重点と捉えておまして、今の生徒達に何が一番伝わるかという、例えば先輩が水高に入って、水高楽しいですよ、というようなことをSNSとかで伝える口コミで持っていくようなことが大きいのかなと思って、やっぱり生徒達に水高で充実した生活を送ってもらう、楽しく勉強や部活動に打ち込んでもらうというのが一番の魅力化であるし、それが発信されるのではないかと考えております。なので、授業の充実は勿論なんですけれど、なるべく、生徒総会等で出たような生徒の意見は我々も真剣に検討して考えてやるというところ、例えば昨年度の夏から、暑いので半袖のポロシャツとハーフパンツを制服代わりにする、それで登下校、授業を受けてよい、これも昨年度取り入れましたし、いまだに制服でなければだめだよという学校がある中で、水高は結構生徒の意見を取り入れてくれるのだなと捉えてもらうと凄く嬉しいですし、45分×7コマにしたのも、50分×7コマで部活動を17:00から始めるのはちょっとどうなのだろうということもあって、やはり16:00からちゃんと部活動を始められるように、45分×7コマにして部

活動をしたい生徒はどんどん水高に来てください、というメッセージを発信できたらよいのかなと思っていますし、何れ、生徒達が学校を楽しんでいることが一番の魅力化発信になるのかなと思っています。

7月にQ Uという心理テストの分析会を富士大学の先生をお招きして実施したのですが、1年生の学校に満足している割合が80数%に上がっていて、帰り際に（講師の先生からちらっと）、こんなに高い満足度の学校は他にないですよ、と言われて嬉しかったですけれどね。そういう風な学校になっていけばよいと思っています。まずは生徒達から学校が楽しいということを周りの子たちに発信してもらうのが一番かなと思います。

服装については、特に困っていることはないと思うんですよ、2、3年生でも新制服を着ている子が100名近くいますので、色々なものが混在しているという意味で書いているのだと思います。はじめから自由選択の割合大きくして、リボンも2つあるタイプですし、ネクタイもあって、どれをつけてもいいよ、ということですし、パンツでもスカートでもどちらでもいいですよ、ということで、とにかく自由に選択していいですよ、としています。暑くなってきたら、ネクタイもリボンも外していいですよ、と言っていますし、ベストを自分で買って着てもいいし、着なくてもいいですよ、ということで、ベストを着るのであればちょっと地味目のものにしてね、といった感じで色々な自由度を高くして、色々な選択があつて、これはいいんですか、これはどうなんですか、そういうところで混乱している感じがあるので、そのうち全校生徒が新制服で統一される頃には何も問題なく移行するのではないかなと思っています。

[朽木静委員]

最近ここ何年か新聞等々で水沢高校の話題を目にすることが増えたなど実感しています。先生方も生徒さんたちも頑張っているのだなあと、とても嬉しく見させていただいておりました。その中で、意見とかではないのですが、学校の魅力ということにもつながるのですが、水高に入学して良かったと思える生徒さん方が9割くらいいるというのは、それは凄く素晴らしいことだと思うのですが、残りの1割の方の御意見、そこが気になるかな、どういうことで入学しなきゃよかったとか思っているのか、そこまでは思っていないのか、その1割の方の御意見とか、いじめが1件あったということで資料の中にあつたのですが、アンケート上は1件ということで上がってきているのでしょうが他に本当にないのかなと、小中学生よりは高校生になればいじめということはないとは思いますが、ないのかなとか、先程、生徒さんが700名ほどいらっしゃるのに残念ながら途中で辞めてしまった方って何人くらいなのかな、あるいは不登校の方って何人くらいなのかな、今具体的な数値は全然いいのですが、例えば1年を通して学力がついていけなかったのか、それとも例えば人間関係とかそういうもので悩んで辞めてしまったのか、そのへんをアフターフォローというか、辞めた方々、躓いてしまった方々、上手く馴染めなかった方々の現状というものが私は今後気になるので年度の終わりにでもそういうデータも出していただければ、またそこから魅力づくりにも繋がっていくと思いますし、90%が95%になり、96%になり、ということに繋がっていくと思いますので、そんな中でも馴染めない、躓いてしまっている方々の現状がとても気になっています。

[校長]

(個人情報を含むため非公表とします)

[東隆司委員]

私は体育会系で生活を送っていたものですから、ここに通っ（てい）たときもはたかれたこともあるし、怒られた、叱責された、あれはまさしくパワハラの極みなんだろうなと思いながらも、やっぱりそういうものなんだろうなと思ってまったくそのときは気にならなかったですが、今はそれはまったく通じないということはそのとおりでございます。自分が社会性を身につける、社会のルールの指導等しつけとか、そういうところとの境目って確かに難しいのだけれども、ある程度そういった規律的なものもいのかかなと思っては聞いていました。これについては何も答えは要りません。素直な感想でございます。

それから、基本的生活習慣の確立のところ、先の議会で、当然、高等学校さんは市の教育員会管轄ではないですけども、ブラック校則と制服の強要についての質疑が、ある議員と教育委員の間でありました。その質疑の中で、水沢高校の制服が取り上げられまして、いい事例として議員が取り上げていたわけですけど、新制服の導入に伴って先程校長先生のお話を聞くとですね、かなり自由度が高くて生徒さん、親御さんも含めてですね、ひじょうに着やすいとか、身に着けやすくなっているなあとお聞きしました。であればあえて面倒な基準などというふうなことは、これは校則ではないでしょうけれども、無理しなくても自由なのが水高の気風だということもいいのかないかなと思いました。

先程の質疑の中でも水高の良さ、校長先生からは学校の魅力化というひじょうに良いお話を聞かせていただきました。この理数科も水高の伝統ある科として、それからSSHは今はなくなりましたが、引き続き県内の中ではリーダーの役割をするのだということではなかろうかと思っておるところですが、理数科の部分について、もしここに書いてあることを補完することや取組があればお聞かせいただければと思いますが。

最後、委員の大越さんが今日来ておりませんが、市との関係で色々取り組まれているとのことで、ひじょうに期待しています。3月に向けて生徒さんたちから提案していただくことについて、我々議会といたしましてもそういったものを、若い人たちの意見をどんどん入れたいなと、どういったものが出てくるかひじょうに興味をもって見ているところですので、一生懸命考えたものを積極的に御提案いただきたいと思います。1点だけ確認なのですが、1年間の包括協定は、1年で終わりということではなくて、とりあえず1年やって、もしよろしければ来年もやるという趣旨なのかどうかだけ確認させてください。

最後に、理数科の生徒さんの数だけ教えてください。

[校長]

奥州市との協定は来年度も、とは思っていましたが。理数科ですが、話すと長くなりそうなんですけれども、SSHは理数科としてやっていた事業なのですが、5年前の第4期から文科省の方針が普通科も合わせて全体で取り組みなさいとなっていました。2年生に上がる時に理数科と普通科に分かれるのですが、それでは理数

科と普通科理系の差別化はどうなっているのかというところがあって、理数科を選ぶ生徒が減って来ていたのですよ。三十人前半とか二十人台とか減ってきていて、昨年度SSHの最終年度でしたので、今年度からはSSHがないわけですが、昨年度、SSH的なものは理数科で引き継ぎますよ、というふうに説明して実際このようなかたちでやっているわけですが、理数科定員40名に対して今の2年生は39名、ほぼ定員を満たすようなかたち、今の1年生の予備調査でも理数科40人定員に対して39名が今のところ希望している、という、そういう状況です。今の3年生は35名、結構これも集まった方だと思います。その前のところがちょっとやっぱり三十人前半とか二十人台とかかなり減っていった傾向がありました。探究課の取り組みについては今後新聞等にも掲載されるかと思いますので。とにかくテーマはアクションを起こすこと、外に出てアクションを起こす、調べ学習はダメですよ、ということで、実際動いていると思います。

[五十嵐智行委員]

先生方には勉強以外にもこれだけ子供たちのために動いていただいてありがとうございます。そのことに尽きます。

[副校長]

他に全体を通して何かございませんでしょうか。

(なし)

それでは、その他ということで皆様から御提言等ございませんでしょうか。

[東隆司委員]

学校の魅力化についてですが、どうして地元の子が地元の高等学校に行かないのだと、減ってるじゃないかと、という質問でした。校長先生がおっしゃった各学校の魅力化、今日は水高の話ですからその他でお話しするのですが、工業高校さんも農業高校さんも商業高校さんも水沢一高さんもそれぞれに学校の良さを中学校3年生の生徒さんにPRしている、それに尽きるものなんだと思います。(議会でも) 地元の高校がこんなにいいんだよ、ということ、今までもやってこられたとは当然と思いますが、なお一層やっていただくことによって優秀な人材をここで学ばせてここから巣立たせていく、というのが理想かもしれませんが一番いいのかな、と思っておって、その質疑を聞いておりました。この件について何かお考えがあればお聞かせいただければと思います。

[校長]

昨日、高橋教育長がちょうどいらして、色々話をしていたのですが、これは奥州市としても問題だと凄く考えていると思うし、高校側としても問題だと考えていて、今年度に関しては各学校の魅力をDVDを作って各中学校に全ての奥州地区の高校がこれを配布してこれを中学校の生徒に観せてPRしてください、という取り組みはしました。ただ、中学校の先生の話の聞くと、やっぱり私学の青田買いが激しくて、引っ張っていかれるようです。公立高校の生き残りをやはり真剣に考えていかないと私学に持っていかれるという状況

があるんだと思います。

[副校長]

その他、ございませんでしょうか。なければ・・・。

[校長]

俳句甲子園についてだけちょっと（お話しさせていただきます）。全国から1,300首集まった中での1位なのでたいへん素晴らしいものであったと思います。

[副校長]

貴重な御意見等ありがとうございました。これで令和4年度岩手県立水沢高等学校第2回学校運営協議会を閉じたいと思います。お忙しいところ本当にありがとうございました。

（4）その他

なし